

## 令和7（2025）年度 学校評価表

長野県高遠高等学校

## I. 学校目標

## 学校教育目標

高遠藩の学問所進徳館における拓世、迫真の実学の精神を現代的視野に立って生かしつつ、人格の完成と平和的な国家および社会の形成者の育成を目指す。

- 1 真摯な学問的精神の涵養、科学的思考力の増進につとめる。
- 2 積極性、自主性を養い、責任感を育て、個性に応じた指導を通じてその伸長につとめる。

## 中・長期的目標（スクールアイデンティティーとして）

- ①地域に根ざし、地域に学び、地域を拓く学校
- ②社会的リテラシーを身に付け、未知なる状況に挑戦し、進路を切り拓く生徒を育てる学校
- ③次代を担う豊かな人間性とコミュニケーション力を持った生徒を育てる学校

R7年度の重点目標	自己評価（％）				成果と課題
	A	B	C	D	
（1）人権が尊重される安心安全な学びの場を築き、生徒会活動やクラブ活動を通してルールやマナーを尊重する自律的な態度を育成し、生徒の規範意識を高める。（2②③）	33	59	8	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の基本的な生活習慣や身だしなみが自主的に守れるよう指導を行った。</li> <li>・規律の遵守を通して自主的・民主的集団作りの指導が行われた。</li> <li>・生徒の自律、規範意識を高める指導を行ったがSNS等を使った問題行動が減らなかった。</li> <li>・大部分の生徒がルールやマナーを守り諸活動に取組めたが、一部の生徒に遅刻の常態化が見られた。さらなる指導の継続が必要である。</li> <li>・生徒、保護者を含め、学校の規則の在り方やその理由を周知し、理解協力してもらえる体制を醸成していく必要がある。</li> </ul>
（2）基礎学力の定着を図り、探究心やコミュニケーション力を育む教育活動を展開し、生徒の進路保障に繋げる。（1①②③）	42	50	8	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着に時間がかかるため、学年ごとにきめ細かい学習指導を行った。</li> <li>・生徒の実態や必要に応じて教科ごとの補習や小論文指導などを行った。</li> <li>・全校道徳学習では卒業生を講師に招いて夢を持つことの大切さを学んだ。</li> <li>・特別支援教育についての職員研修を行ったが、特性を持つ生徒に対する学習指導については更なる研究や取り組みが必要だと思われる。</li> </ul>
（3）コース制の特色や総合的な探究の時間を活かし、地域体験型学習活動の充実を図り、自己肯定感を高めることにより、自主性を養い、豊かな人間性を育む。（1①③）	42	58	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース内のみでなくコースごとに横断的な活動を行うことができた。</li> <li>・探求学習では、地域との交流を通して地域の課題についての探求を深め、地域からの助言や協力を得て活動を進めることが出来た。</li> <li>・高遠高フォーラムでは、コース毎に1年間の学習成果をまとめて発表した。コースでの活動に誇りを持ち、堂々と発表することが出来た。</li> </ul>
（4）地域づくりの中核校として、高遠学園構想推進連絡会の下、地域の教育機関や福祉施設・文化施設等と連携を深め、開かれた学校の役割を果たす。（2①②）	25	75	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース授業において地域の小中学校や保育園、福祉施設での活動を行い地域の人々と交流することができた。</li> <li>・地域のイベント行事や高遠城址公園でのさくら祭り、もみじ祭り等で観光客や地域の方々にステージ発表や商品販売を行い地域の活性化につながる活動が出来た</li> <li>・地域を支える人材として活躍できるように、進路係を中心に多くの企業や大学等と連絡を密にすることが出来た。</li> </ul>

本年の重点目標について、次の4段階で全職員による自己評価をおこないます。

- A： ほぼ目標を達成した      B： どちらかといえば目標を達成した  
C： どちらともいえない      D： あまり達成できなかった

## II. 項目別評価(R7年度)

対象	7年度評価項目	7年度評価の観点	成果と課題
1学年	・基本的な生活習慣の確立 ・学習習慣と基礎学力の定着 ・コミュニケーション能力と社会性の向上	・授業を大切にし、参加する生徒を育てることができたか。 ・遅刻・欠課・早退しない意識を持たせることができたか。 ・ノートや課題を期限内に提出する大切さを伝えることができたか。 ・学年研修旅行や学校行事に積極的に取り組めるように計画できたか。 ・自らの特性を理解するとともに相手の個性を認め、適切な距離感や交友関係を保ち、いじめやからかいを抑止することを啓蒙できたか。	○多くの生徒が授業にしっかりと参加することができた。 △一部の生徒に遅刻の常態化が見られた。 △多くの生徒は提出期限を守れているが、一部提出できない生徒がいた。 ○文化祭、クラスマッチ、平和学習などクラスがまとまって取り組めた。 △SNSのトラブルや友人関係で悩む生徒がいた。
2学年	・基本的な生活習慣の確立 ・学習習慣と基礎学力の定着 ・コミュニケーション能力と社会性の向上 ・進路実現に向けた意識づけ	・授業を大切にし、参加する生徒を育てることができたか。 ・遅刻・欠課・早退しない意識を持たせることができたか。 ・ノートや課題を期限内に提出する大切さを伝えることができたか。 ・学年研修旅行や学校行事に積極的に取り組めるように計画できたか。 ・進路見学会、職業を知る講座を通して、進路について具体的に考えさせられたか。 ・希望にあった進路を考えられるように自己の適性がわかるように支援できたか。	△多くの生徒が真剣に取り組むことができたが、一部寝てしまうなどの生徒も見られた。 △早退は減っているが、一部の生徒に遅刻の常態化が見られた。 △多くの生徒は期限を守れているが、一部間に合わない生徒がいる。 ○事前学習や準備の段階から参加出来るように計画し、活気ある行事を行うことが出来た。 ○様々な進路行事を通して進路先について考え、具体的な進学先、就職先を模索することが出来た。 ○適性診断テスト等を活用して自己理解を深めることが出来た。
3学年	・自主的な学習の定着 ・社会性の伸長 ・進路実現	・進路室を積極的に活用したか。 ・進学補習、就職補習、模試を定期的に行い、生徒たちの自主的な学習のサポートが行えたか。 ・文化祭やコースの活動を通じて、生徒たちと地域をつなげる環境づくりを行えたか。 ・生徒たちの進路実現に向けて、進路先の開拓ができたか。 ・進路係と連携し、個に応じた適切な進路指導ができたか。 ・挨拶や言葉遣いなど社会に出るために当たり前に行わなければならないことを身に付けさせることができたか。	○資料の閲覧や教員の指導を受けるために、進路室に多くの生徒が訪れた。 ○個々の生徒に応じたサポートができた。 ○コースで実施した総合的な探究や、文化祭を通じて地域とのつながりを作ることができた。 ○進路先拡大のため、進路係を中心に多くの企業や大学等とつながりを持つことができた。 ○学年・係の間で情報共有を図り、適切な指導が実施できた。 △入室時の言葉遣い等、機会を捉えて指導をおこなったが、定着が十分でない生徒も見受けられた。
生徒指導	・生徒の特性の適確な理解	・生徒の日常生活をしっかりと観察し、変化やサインを見逃さなかったか。 ・個々の生徒の特性がよく話し合われ、職員間の情報交換が十分に行われているか。	○生徒の日常生活をしっかりと観察することができた。 ○個々の生徒の、変化やサインを確認し、教員間で共有することができた。 ○個々の生徒の特性がよく話し合われ、職員間の情報交換が行われた。
	・基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成	・日々の基本的な生活習慣や身だしなみが自主的に守れるよう指導が行われているか。 ・規律の遵守を通して自主的・民主的集団作りの指導が行われているか。	△日々の基本的な生活習慣や身だしなみが自主的に守れるよう指導を行った。 △規律の遵守を通して自主的・民主的集団作りの指導が行われてた。 ○生徒、保護者を含め、学校の規則の在り方やその理由を周知し、理解協力してもらえ体制を醸成してゆく必要がある。
生徒会	・自主活動を通じた自立的態度や自己肯定感、規範意識、コミュニケーション力等の育成 ・PTAや地域との協働	・兜陵祭を通して地域との関係づくりを支援できたか。 ・四者協議会の内容が充実するよう検討が進められたか。 ・PTAと協力して環境整備作業ができたか。 ・委員会活動などの生徒会活動に自主的に取り組めるよう支援できたか。	○徐々に地域のイベント行事へ参加できるようになってきた。 ○今後の高遠高校について短時間ではあったが意見交換ができた。増やしていければ。 ○通常の参加ができた。全員で環境整備ができた。 △自主的な取り組みができたが、全校生徒への意識付けが今後の課題。
クラブ活動	・生徒の特性を理解し、生徒が選択した競技等を通して社会性の伸長を図る	・ルールやマナーを尊重する自律的な態度を育成し、生徒の規範意識を高めることができたか。	○どのクラブにおいても競技力の向上に加え、礼儀やマナーの指導を行い、全校生徒の手本となるような行動をとっている。
進路指導	生徒に応じた弾力的進路指導	・生徒個人の適性・取り巻く環境等を含め、総合的に進路に関する助言ができたか。 ・学年の状況に対応した指導となっているか。 ・各学年間や学校全体での指導とも連携をとれていたか。	○SHR前の職員連絡会をおこなった △就職では、一社目で内定をとれなかった生徒が13名いた ○履歴書の作成方法が今年度から変更となり、生徒の負担が減った
	基礎学力の向上と進路試験対策	・教科だけでなく一般常識や社会常識を基にした、基礎学力の育成ができたか。 ・継続的・組織的に基礎学力の向上がはかられ、3年生は試験対策となり得たか。 ・過去問題集『合格へのレシピ改訂版』を効果的に活用できたか。	○「合格へのレシピ」を活用できた △面接練習など、生徒の取り組みに差がある
	多様な進路希望に対応した進路情報の提示	・生徒個人・学年・時期等に応じた進路情報を提示し、自己実現の援助ができたか。 ・保護者に向けた情報提供は適切であったか。	△保護者向け進路説明会を開催したが、参加者は5割程度であった ○オープンカンパニー、産業視察、企業勉強会に参加した
特別支援	生徒の必要に応じた指導支援の充実	・支援を要する生徒の実態把握ができたか。 ・個々の生徒に応じた適切な支援ができたか。 ・各種研修会の内容を教職員が共有することにより、教職員がさらに指導支援の力をもにつけることができたか。	○中学校との連携、保護者面談等を通して、生徒の実態把握が出来た。また職員会や委員会でも共有し、把握することができた。資料をPDFとしたことで、情報管理を強化できた。 △生徒にどのような支援ができるのか検討し支援をしているが、支援体制については引き続き検討していく必要がある。今後も外部機関との連携を密にして支援をしていく必要がある。 ○職員研修会ではほとんどの職員が出席でき、有意義な研修となった。職員で研修内容を共有できた。
学習指導	学習習慣の確立・個性を伸ばすきめ細かい指導	・基礎学力向上のため各学年の実態に応じた教科指導・補習などを行えたか。 ・生徒の希望に応じた補習授業、特性に適った個別指導を計画的に行なえたか。 ・進路実現に必要な文章力向上のための具体的な方策をとれたか。	○各学年ごとの実態に合わせて、教科別の補習や小論文指導などを行うことができた。 △他学年の様子がもう少しわかるように、係の中で共有していきたい。

## II. 項目別評価(R7年度)

対象	7年度評価項目	7年度評価の観点	成果と課題
	総合的な学習・探究の時間の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の教育力を活かした編成ができたか。</li> <li>自己肯定感を高め、コミュニケーション力を高める活動を組み込めたか。</li> <li>必要な資料の提供や相談活動を行えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探究学習では、地域との交流を通してこの地域における課題について探究を深めたり、地域からの助言や協力を得て活動を進めることができた。</li> <li>○校外での交流・学習成果発表会等を通して他者との繋がりを感ぜられる活動ができた。</li> </ul>
	幅広い教養と豊かな人間性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校道徳学習を行い幅広く、人権感覚等を磨く機会を提供できたか。</li> <li>日常の中で生徒の、自尊感情、他者の人権を尊重する意識・態度を高められたか。</li> <li>上伊那地区高校合同芸術鑑賞(6月)を充実したものにできたか。</li> <li>図書館の環境整備と利用を促進できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校道徳学習では、卒業生で元プロ野球選手の山田夢大さんを講師として、講演会を行った。【夢を持つことの大切さ】をテーマとして高校時代のことなど生徒にとっても身近な話を聞くことができた。</li> <li>○芸術鑑賞では演劇を鑑賞した。プロの舞台を鑑賞する充実した良い機会になった。</li> <li>○図書委員が積極的に当番活動を行い、季節を感じられる環境整備ができた。</li> </ul>
	校内研修の計画と実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な職員研修(特別支援、授業改善、キャリア教育等)の計画と実施をできたか。</li> <li>職員同士で授業を見合う環境作りを行えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○10月に特別支援教育についての職員研修を実施した。</li> <li>△授業互見を広めるための取り組みについては今後の検討が必要である。</li> </ul>
コース運営委員会	文理進学・福祉・芸術・情報ビジネス(3年)、人間福祉・地域創生・芸術文化(1,2年)の各コースの充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>各コースの特色に応じて、探究的な学びを一層深める支援ができたか。</li> <li>高遠高フォーラムにおいて、探究的な学習の成果を発表する支援ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な探究の時間について整理したことでコースごとの探究を深めることができた。また、コース横断的な活動を行うことができた。</li> <li>○フォーラムについてスムーズに進行することができた。</li> </ul>
学校改革推進調整委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価、他己評価を学校運営に反映し教職員のチーム力を向上する。</li> <li>2年目を迎える新教育課程について内容を検証し、今後の課題に学校全体で取り組む体制をつくる。</li> <li>全学年2クラス編成となる来年度へ向け、学級や学年の最適な姿を模索する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価の見直しを行い、学校目標達成に向けて手立てを講じることができたか。</li> <li>学校評議員会、四者協議会との連携がとれたか。</li> <li>職員意見交換会を実施し、それにより諸課題に対する理解が深まったか。</li> <li>高遠高校の将来を見据え、魅力ある学校の実現に向けて具体的な提案ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価に関しては、各係等でそれぞれ見直し学校目標達成を目指すことができた。</li> <li>○学校評議員会、四者協議会共に話し合いが深まり、有意義なものとなった。</li> <li>△定例の職員会以外には特別に意見交換会を実施することが出来ず課題が残った。</li> <li>○学級減に伴う諸課題について話し合い、他の委員会へ協議を依頼することが出来た。</li> <li>○新教育課程の内容を検証し、選択科目の見直しや追加を実施することが出来た。</li> </ul>